

名古屋女子大学 学 報

vol. 114

September

2023.09

NAGOYA WOMEN'S UNIVERSITY
COLLEGE OF NAGOYA WOMEN'S UNIVERSITY

特集 | おっ ぱら
越原学舎研修

越原学舎宿泊棟



学園訓「親切」 創立者 越原春子 筆

越原学舎研修

越原学舎研修は、創立者生誕の地、岐阜県東白川村越原で行われる新入学生対象のオリエンテーション研修です。新型コロナウイルス感染症の影響により、近年は学内研修としましたが、令和5年度は4年ぶりに、越原学舎で実施しました。研修では「建学の精神」を学ぶ学長講義と各学科独自のプログラムが行われます。今号では、越原学舎研修についてご紹介します。

令和5年度新入生への学長メッセージ

学長 越原もゆる



越原もゆる学長

新入生の皆さん、入学おめでとうござい
ます。

本学は、創立者越原和越原春子両先生に
より、大正四年、本学の生徒・学生、教職員、
全ての基本であり目標である学園訓を「親
切」と定めて設立されました。本年度、本学
は、学園創立から一〇九年目を迎えます。

学園訓「親切」に基づき掲げられた「建学
の精神」は、「高い教養を身に纏った、よき家
庭人であり力強い職能人としての女性を
育成する」ことです。本学で学ぶ皆さんは、
卒業後、家庭的な女性らしさと、職業を通
して社会に貢献できる力を兼ね備えた人に
育ってほしいという創立者の願いが

「建学の精神」に込められています。そして、
学園訓「親切」の本質にある思いやりの心
は、感謝の気持ちを持つことに始まります。

皆さんを本学へ通わせてくださっているご
家族、教えるを受ける先生方、学生生活のサ
ポートに従事する職員の皆さん、そういった
勉学することができ環境に感謝して学業
を修め、本学での学びを職業により社会の
ために役立てることで、感謝を還元してい
くことが学園訓「親切」の本質です。本学で学
修する、衣食住、情報ビジネス、教育、社会
福祉、医療の分野は、少子超高齢社会をは
じめ、日本が抱える様々な社会問題を支える
重要な学問領域にあります。将来は、職業
を通して社会貢献により、「建学の精神」、

そして、学園訓「親切」を実践してください。
また、学園訓「親切」を日常において具現化
するための始まりは、挨拶であると考えてい
ます。キャンパスの中で会う教職員や友人、
来学者に対して自ら進んで挨拶をするよう
に努めてください。

さて、本年度は、新入生が創立者越原春子

先生の郷里で「建学の精神」を学ぶ「越原学
舎研修」が、日帰りの日程に代替し、四年ぶり
に行われました。学長講義の際、皆さんが来
訪した春子先生の生家は、「女子に学問は不
要」とされた時代に教師を志し、春子先生が
勉学に励み続けた場所です。春子先生は、
十五歳で隣村の小学校教師を一年間務めた
後、生家に戻り、家業（農業・養蚕業）を手伝
い、知人の仕立てを請ける傍ら、再び教壇に
立つ日を志し勉学を続けました。待望の機
会は、十九歳の秋、名古屋に到来します。

三年七カ月の間、渴望し続けた志が叶い、未
来への希望に溢れる春子先生の姿は、パン
デミックから三年を経て、新たな道を拓こう
と前進する私たちの思いと重なります。

本学の「建学の精神」にある、「力強い職
能人」とは、様々な問題を抱える社会の中に
おいても、それら諸問題に立ち向かい、個々
の能力を発揮できる社会人を意味します。
どうか、学生生活の中で多くのことに挑戦
してください。失敗があっても、成功への解決
策を導き出せるようになった時、自己の能力

への自信が生まれます。皆さんには、多方面に
問題を抱える社会の中においても、仕事
が長く続けられる精神力を培ってほしいとい
と切望します。

そして、皆さんが卒業後に出ていくのは、
様々な課題の解決に向けて、人工知能
（AI）と共生する、人であるからこそできる
能力がより強く求められる社会です。学園
訓「親切」の思いやりの心は、まさに、コン
ピューターに優る人の能力であると考えます。

将来は、思いやりと感謝の心を基に、皆さん
が新たなアイデアを創出し、社会を支えて
もらいたいと所望します。人との繋がりに
おいてもデジタル化が進みますが、見えない
相手を思いやる心を忘れないでください。

また、本学の教育・研究と民間企業、行政を
繋ぐ産官学連携など地域社会と繋がる活
動にも積極的に参画し、多様化する社会に
対応できる能力を磨いてください。

「建学の精神」、そして、学園訓「親切」の
基に、皆さんの努力が結実することを願
います。

学長講義「建学のこころ」



越原学舎



越原学舎での各学科講義

本学は、創立以来の「学園の信条である『親切』を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏ったよき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成する」とことを建学の精神とし、またこれを教育理念として掲げています。建学の精神・教育理念は、入学式での学長式辞や越原学舎研修、越原記念館巡覧などの機会を通じて新入学生へ周知され、理解が図られており、私学としての特色ある教育の実現を目指しています。



学長講義へ向かう学生

に代えて学内研修として実施しました。令和5年度の越原学舎研修は、4年ぶりに越原学舎で、学科ごとに日帰りで実施しました。事前準備として、学生は創立者の日記や伝記を読み、創立者を取り上げた特集番組を視聴し、創立者の功績を知りました。また、越原記念館の巡覧を行い、実物資料を通して建学の精神や教育理念を学びました。その後、越原学舎に場所を移し、創立者の生家で行われる学長講義を受講し、囲炉裏を囲んで縄や草履、お弁当箱等、数々の民具を手にながら、創立者を生んだ江戸時代の庄屋の生活ぶりや、育った明治時代の生活ぶりなどを追体験しました。大学へ戻つてからは、各学科独自のプログラムの中で、建学の精神に関連付けながら、自らの将来設計に関わる課題に取り組みました。

学生は越原学舎の豊かな自然の中で、本学園を創立するに至った春子先生の立志を胸に刻み付け、実感を持って建学の精神を学ぶことができました。



「建学のこころ」学長講義

東白川村越原学舎周辺案内

越原学舎は、創立者越原春子先生の郷里、岐阜県加茂郡東白川村越原にあり
ます。明治18年1月24日、春子先生は岐阜
県加茂郡越原村（当時）に生を享けられ
ました。越原家氏神社の側に、春子先生
を偲ぶ記念館がありますが、この場所が
春子先生の生誕の地です。その後、春子
先生の郷家は越原学舎と隣接する今の
位置に移りました。この生誕の地、上方
数十メートルの場所に、春子先生の墓所が
あります。もちろん当時は、自動車の通る
道路は出来ておらず、ここから名古屋へ
出ようとすれば、途中一、二泊しての徒歩
の旅でした。

まだ丁髷^{ちやんまげ}を結った人さえあったという
山峡の村で、春子先生が教師になりたい
と立志されたこの地は、現在も清らかな
自然、空、大気、樹木、澄명한白川の水に
包まれています。有名な信仰の山、御嶽
山に近いのですが、その御嶽は近すぎて
他の山がさえぎり、却って見えません。
学舎周辺には、職員宿舎にあてられている
碧潭荘に沿う御館淵があります。今も
澄明そのもののこの淵で、春子先生はよく
水泳をされたそうです。

越原学舎は昭和43年に建設され、40年
にわたり使用されてきましたが、平成21年
に建て替えが完了し、現在の新学舎と
なりました。例年、本学園の大学・短期
大学部高等学校・中学校の新生が訪れ、
それぞれが特長ある行事・学習日程
を組み研修をしています。

⑥ 御館淵



学舎の裏を流れる白川。奥が御館淵。

② 白川の流れとつり橋



① 瀬音公園



③ 越原家氏神社



④ 和春庵・春子生誕の地

氏神社境内にある記念館「和春庵」。
春子先生の生家はこの位置にあった。

⑦ 越原学舎



⑤ 水車



■越原学舎研修 学科独自のプログラム紹介

医療科学部 理学療法学科・作業療法学科

東海記念病院見学と外部講師講演

医療科学部では、建学の精神にある力強い職能人としての女性の育成の観点を踏まえ、5月20日に早期施設見学、6月28日に外部講師の特別講義を実施しました。

早期施設見学は、入学後の早期に、臨床現場で働く理学療法士や作業療法士が対象者に関わる姿や、リハビリテーションに用いる設備機具を知る機会を通して、学生が将来に向けた自己像の形成と学内外での取り組みに対する意欲を高めるきっかけとなることを目的としました。

実施に当たっては、春日井市にある東海記念病院の協力を得て、リハビリテーション室で実際に対象者の方々が受けている治療の様子や、医療機器に触れる機会をいただきました。入学間もない新入生たちは初めて白衣に袖を通し、引き締まった様子の学生、慣れない服装に照れ笑う学生、緊張の面持ちの学生と、三者三様の様子でしたが、見学場面では皆輝く眼差しで高い関心を寄せていました。

外部講師による特別講義は、国内外の多方面で活躍する療法士の実際を学びました。講師には、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院国際医療救援部理学療法士中島久元氏をお招きし、「療法士がかかわるウクライナのリハビリテーション支援について」と題してご講演いただきました。紛争下でご自身も現地で関

わっている支援の実際を映像も交えてお話しいただき、現地住民の苦しみが伝わり、とともに、学生たちは「自分は何ができるのか」を考える貴重な機会となりました。

今年度、「建学のころ」の科目では、学園訓「親切」を基軸として、動画視聴や越原記念館の巡覧などを通して建学の精神を学ぶとともに、早期施設見学や特別講義による見識の深化を試みました。医療科学部では、対象者の痛みや辛さに共感し、信頼される力強い療法士の育成を目指しています。これらの学びが学生の成長の一助になり、将来につながることを期待しています。

(中西康祐准教授)



東海記念病院のリハビリテーション室での見学の様子

短期大学部 保育学科(第一部・第三部) 越原の植物を描こう！

今年度の短期大学部保育学科越原学舎研修では、身の回りの小さなことに気づくことをテーマとして、越原の植物を描くことを学科プログラムにしました。第一部の学生は、既に造形の授業が開始されており、画材の使い方や、実際の花を手にとって描くという授業を行っています。第三部の学生は、造形の授業は2年生からのため、画材も前倒しで準備しての参加となりました。また、今年の研修日程は日帰りで時間的な制約があったため、現地でスケッチすることに代えて写真撮影のみを行い、大学へ帰ってから描くことにしました。今は、殆どの学生がスマホを持っており、誰しもリアルな画像を撮影することが出来ます。

学生には事前に、「写真撮影することによって、越原の自然やその時体験した記憶を心に残すことができるが、描くことにより、さらに思い出を深めることができる。上手に描くことが目的ではない、描いてみたいと感じた植物を撮影し、紙に表現するように」と伝えました。

学生たちは写真に残した越原学舎の草花を、植物の輪郭をはっきり描き、影をつけるなど、個々の特徴を捉えるため細かな工夫をこらして描いていました。このプログラムを通して、学生たちは普段歩いている時には気づかない植物に気づき、観察することの楽しさを知ることが

できました。未知の植物に出会ったときには調べることで自分の知識となり、保育する上で子どもに教育することができ、自然に触れさせることで好奇心が育ち子どもに良い教育ができることを学ぶことができました。越原学舎研修での思い出をかたちとして残すと共に、創立者越原春子先生の女性としての生き方にも思いをはせようです。

(松田ほなみ准教授)



越原春子先生生家の前で花の観察をする学生たち

禁煙巡回の取り組み



教職員による近隣道路の巡回、吸い殻拾い

本学では、平成15年4月1日より「煙のない爽やかなクリーンキャンパス」宣言を行い、「キャンパス内完全禁煙」を実施しています。この取り組みのひとつとして、全教職員の協力により、学外近隣の巡回、吸い殻拾い及び禁煙指導の活動を行っています。この活動は、単に喫煙禁止の規則遵守のためだけでなく、本人及び周囲の人の健康のため、また、地域社会への貢献活動の一環として、今後も継続してまいります。

令和5年度 名古屋女子大学・名古屋女子大学短期大学部入学式



入学生代表宣誓の様子



越原もゆる学長式辞

令和5年度入学式は、4月4日に本学園体育館にて、大学・短期大学部の二部制で挙行されました。式典では、越原もゆる学長から「本学の建学の精神にある『力強い職能人』とは、様々な問題を抱える社会の中においても、それら諸問題に立ち向かい、個々の能力を発揮できる社会人を意味します。どうか、学生生活の中で多くのことに挑戦してください。失敗があっても、成功への解決策を導き出せるようになった時、自己の能力への自信が生まれます。皆さんには、多方面に問題を抱える社会の中においても、仕事が長く続けられる精神力を培ってもらいたいと切望します」との式辞が述べられました。入学生代表による宣誓が行われ、学園歌(校歌)「月花の」に聴き入った後、式典は無事終了しました。その後は各教室に分かれ、真剣な眼差しで学科説明を聞く新入学生の姿が見られました。

春光会

第9回 卒後教育研究会の開催



額綱守教授による講演

卒後教育研究会は、卒業生を対象にした学びの場として、越原もゆる学長を会長として2016年に発足してから、今回で9回目となります。6回までの内容は、卒後教育研究会会誌としてすでに発行されています。今回、7月8日に岐阜大学工学部の額綱守教授をお招きして、「身近な食材と健康」をテーマに開催しました。お茶と鶏卵についてのお話は大変興味深く、参加者にも喜ばれ、有意義な講演会となりました。

春光会

第49回 春光会総会



学長挨拶

第49回春光会総会が、5月20日名古屋マリオットアソシアホテルにおいて開催されました。総会に続き、講演会では「昔々ゾウの研究者とアフリカを旅した話」をテーマに、文学部の荒川志津代教授から実体験を通した楽しいお話をいただきました。その後の懇親会では、大学から、越原もゆる学長を始め、多くの先生方をお招きしました。大勢の会員の皆様と共に、久しぶりに賑やかな会となりました。

越原記念館

学生作品選抜展 2023



学生作品展示風景

「学生作品選抜展2023」が3月11日から8月13日まで越原記念館で開催され、令和4年度に授業やゼミで取り組んだ成果として、建築、工芸、インテリア・服飾デザイン、美術・情報教育教材など多彩な分野から制作した学生作品を一堂に展示しました。また展示に合わせた体験イベントとして、3月11日、生活環境学科教職員の協力により、樹木の模型づくりに一般の方々が参加されました。

健康科学部 看護学科

第109回 保健師国家試験結果

保健師国家試験の合格率推移

回	実施年月	本学	全国(新卒)
第109回	令和 5年2月	100.0%	96.8%
第108回	令和 4年2月	—	93.0%
第107回	令和 3年2月	—	97.4%
第106回	令和 2年2月	—	96.8%
第105回	平成31年2月	—	88.1%

看護学科は、一期生保健師課程11名全員が第109回保健師国家試験を受験し、全員合格することができました。全国の新卒合格率の平均は96.8%でした。東海3県で新卒者の合格率100%を達成したのは18校(69%)で、本学看護学科保健師課程は好調なスタートを切ることができました。現在、二期生は集大成である実習と国試対策、授業を並行して取り組み、多忙な中で努力を重ね100%合格を目指しています。(山田裕子准教授)

健康科学部 看護学科

第112回 看護師国家試験結果

看護師国家試験の合格率推移

回	実施年月	本学	全国(新卒)
第112回	令和 5年2月	95.4%	95.5%
第111回	令和 4年2月	—	96.5%
第110回	令和 3年2月	—	95.4%
第109回	令和 2年2月	—	94.7%
第108回	平成31年2月	—	94.7%

看護学科の第112回看護師国家試験の合格者は62名であり、合格率は95.4%でした。合格率の推移は表に示すとおりです。本学の合格率は、看護師養成課程(新卒)の平均合格率を0.1%下回りました。今年度は、これまでの国家試験対策をブラッシュアップしながら、国家試験情報の説明や個別面談、弱点克服補講などを行い、より手厚くきめ細やかに受験対策を行っております。(中神克之教授)

健康科学部 健康栄養学科

第37回
管理栄養士国家試験結果

管理栄養士国家試験の合格率推移

回	実施年月	本学	全国(新卒)
第37回	令和 5年2月	95.2%	87.2%
第36回	令和 4年2月	97.8%	92.9%
第35回	令和 3年2月	92.6%	91.3%
第34回	令和 2年3月	99.3%	92.4%
第33回	平成31年3月	100.0%	95.5%
第32回	平成30年3月	99.3%	95.8%
第31回	平成29年3月	97.2%	92.4%
第30回	平成28年3月	94.9%	85.1%

健康栄養学科一期生として105名が受験し、合格者は100名でした。昨年と比較して合格率(95.2%)はやや低下しましたが、全国の新卒者合格率(87.2%)を8%上回る結果でした。思考力や応用力を要する新しい形式の問題が増えており、これに対応できる実力をつける必要があります。4年間を通した確実な学修指導と、食物栄養学科から引き継がれた国家試験対策をより強化し、管理栄養士育成に努力してまいります。(山中なつみ教授)

受賞

日本理学療法士協会 協会賞

石田和人 教授(医療科学部)

長年にわたり日本理学療法士協会及び都道府県理学療法士協会の活動において格段の功績があったことが認められました。この栄誉を心からお慶び申し上げます。

受賞

第29回日本心臓リハビリテーション学会
学術集会 優秀賞

内藤紘一 講師(医療科学部)

『外来心臓リハビリテーション患者における在宅での客観的に測定された身体活動・座位行動時間の特徴』により受賞しました。この栄誉を心からお慶び申し上げます。

越原記念館

「WEB卒業制作奨励選抜展」
4作品受賞



奨励賞作品「アボリジニアートの技法研究と制作」

中部エリアの芸術関連大学等から卒業制作として選抜された中部デザイン協会「WEB卒業制作奨励選抜展」に、越原記念館「学生作品選抜展2023」の出展作品の中から、令和4年度制作の4作品4名が選抜され、奨励賞を受賞しました。これらの作品は、卒業後も同協会のWEBサイトに1年間にわたり公開されるため、学生の作品制作のモチベーションとなっています。

文学部 児童教育学科

令和6年度採用 小・中学校教員
採用試験(一次)結果

採用選考試験(一次)結果

自治体名	合格者数	自治体名	合格者数
愛知県	29名	富山県	1名
岐阜県	6名	川崎市	37名
三重県	4名	横浜市	8名
名古屋市長	5名	浜松市	1名
長野県	2名	福岡市	1名
静岡県	1名	神戸市	1名
一次試験合格者53名(延べ合格者数96名)			

令和6年度採用「小・中学校教員採用試験(一次)」の結果は、上の表の通りです。受験者のうち合格者は53名で、合格率は95%でした。本学科では、授業において教育者に必要な専門性と実践力を身に付けるとともに学生による自主学習サークル「リーフレット」で教員採用試験対策を進めています。二次試験に向けた学生の一層の頑張りを大いに期待しています。

(竹内正裕教授)

健康科学部 看護学科

一宮市「旬の家族フェス2023」で
学生ボランティア

学年の枠を超えて、地域の活動に参加しました!

5月28日、一宮市で開催された地域の体験型イベントに、看護学科の学生19名がボランティアスタッフとして参加しました。当日は、3,000人を超える来場者の笑顔あふれる1日となりました。子どもたちのお仕事体験や選挙体験、リボンライダー啓発活動等、様々な体験ブースでの活動を通して、子どもたちの夢を支えることの大切さ、地域の力を支援することの大切さを体感することができました。(橋本侑美講師)

医療科学部 理学療法学科・作業療法学科

オープンキャンパス特別企画「大同病院見学ツアー」



リハビリテーション室での見学・体験



下肢装具を装着しての階段昇降体験



ハンドセラピー体験

本学と相互協力協定関係にある社会医療法人宏潤会大同病院の見学ツアーを7月に実施し、医療系学科進学希望の高校生と保護者、計32名にご参加いただきました。大同病院リハビリテーション科の科長から、人に関わる医療専門職の仕事の魅力とやりがいについてお話があり、その後、リハビリテーション分野で進化が著しい歩行支援ロボット「HAL」の装着体験と生活自立を促す各種補助器具の紹介と使用体験を行いました。リハビリテーション室では、職員の働く姿を目の当たりにするとともに理学療法士による下肢装具を装着した階段昇降体験や、作業療法士による手の装具を装着した機能訓練の体験等、臨床を体感できる貴重な機会となり、参加者からは「本学への進学モチベーションが高まった」等、高い評価を多数いただきました。(加藤芳司講師)

健康科学部 看護学科

先輩学生として
オープンキャンパスに参加

参加者の心臓マッサージ体験をサポート

8月開催のオープンキャンパスでは、授業の内容が分かる体験コーナーや卒業生を招いた座談会を行いました。ミニ体験「心臓マッサージを体験しよう!」では、授業で使用するアプリで看護学科学生が参加者の心臓マッサージを評価し、出来栄を共有しました。在学生の主体的なサポートに対し、参加した高校生や保護者の方から、先輩が優しく説明がわかりやすい、モチベーションが上がった、という声をいただきました。(竹田千佐子教授)

健康科学部 健康栄養学科

ゲストスピーカー講演
「美味しさを優先した介護食の実践」

講演会の様子

7月17日・18日、健康栄養学科4年生を対象に特別講演会を開催しました。講師の岩本恵美氏は長年、高齢者施設の給食改善に携わった経験から、現在「全国食楽推進普及協会」を主宰して安全で美味しい介護食の普及に尽力されています。最新の調理法も紹介され、開発中のソフト食総菜も試食させていただきました。高齢者の食事提供で大切にすべき心得や、仕事に対する思いなども伺い、学生にとって大変有意義な授業となりました。(伊藤美穂子助教)

健康科学部 健康栄養学科

管理栄養士になる!
モチベーションアップセミナー

卒業生による体験談や管理栄養士業務についての講演

健康栄養学科1年生を対象にセミナーを開催しました。管理栄養士として活躍している卒業生の倉田京香氏(いおうじ応急クリニック)、柴田彩氏(日本赤十字社愛知医療センター)、藤原未有氏(株式会社 ヤタロー)を講師に招き、大学4年間の過ごし方・学びの大切さ、職場での管理栄養士業務についてご講演いただきました。多くの学生にとって、管理栄養士免許取得への意欲を高める貴重な機会となりました。(近藤貴子講師)

文学部 児童教育学科

ハンドベル演奏会に向けて 外部講師招聘



Ringの練習風景 基本的なフォームを大切に

音 楽教育・表現ゼミナールでは、6月6日に外部講師をお招きし、ハンドベル講習を実施しました。ハンドベルの歴史は、ヨーロッパの教会の鐘に原点を置き、「天使のハーモニー」とも称され、聖なる響きで教会の礼拝に用いられています。ハンドベルの多様な奏法Ring、Damp、Tour Swing、Pluck等基本から応用まで、ご指導いただきました。学生達は熱心に取り組み、今後のボランティア活動、クリスマスの演奏会に向けて貴重な時間となりました。（坪井眞里子教授）

文学部 児童教育学科

学生ボランティア「アカデミック・サポーター」の活動



ガイドブックからクイズを出題



おすすめの勉強法や勉強のポイントを紹介

児 童教育学科では、学生の主体的な学修を支え、また、教員採用試験や公務員試験等、就職活動の場で必要となる確かな学力を養成するため、『保育者・教育者を目指す学生のための自習ガイドブック』を作成しています。このガイドブックをさらに活用してもらうために、今年度から南8号館内に「自習ガイドブックステーション」を設置することになりました。学生ボランティア「アカデミック・サポーター」は、担当の先生たちと一緒に、自習ガイドブックステーション作りに取り組んでいます。具体的には、掲示物の作成やガイドブックからのクイズの出題、ガイドブックに関する先輩への取材などの活動を行いました。これまで活動を2回行いましたが、アカデミック・サポーターのメンバーは、工夫満載、楽しく活動に取り組んでいます。（堀部要子准教授）

家政学部 生活環境学科

「ヒサヤパーク防災まつり」で 地震と建物の揺れイベント



模型を使用しわかりやすく説明

4 月29日に名古屋青年会議所が主催する「ヒサヤパーク防災まつり」がヒサヤオオドリパークで開催されました。このイベントは、災害に対する知識を楽しく学ぶことを目的とした活動です。民間や公的機関など18の出店の中、名古屋女子大学生生活環境学科も参加し、地震が建物や地盤に与える影響を視覚的に理解できるように、学生が模型を使って説明をしました。

（吉田競人教授）

家政学部 生活環境学科

「製菓・製パンとカフェ」の授業で アフタヌーンティー



アフタヌーンティーの自主献立作品

生 活環境学科では、昨年度から4年生対象の「製菓・製パンとカフェ」の授業が始まりました。毎回、パンは手捏ねで作り、菓子は洋菓子から和菓子まで、いろいろなジャンルの菓子を楽しみながら製作しています。最終回のアフタヌーンティーの自主献立では、班ごとに工夫を凝らしたパンや菓子、ゼリーが、スタンドにきれいに盛り付けられました。半年間の成果が発揮された素敵な作品ができあがりました。（間宮貴代子准教授）

家政学部 生活環境学科

羊の毛刈り体験



羊「ひなた」の毛をハサミでそっとカット

衣 生活研究ゼミでは、愛知牧場の協力を得て羊の毛刈りを体験しました。羊の名前は「ひなた」です。羊は自然に毛が抜け変わることはなく、放っておくと病気になります。羊の肌を傷めないバリカンで全身の毛を刈るのですが、背中や腹、尻など部位により羊毛の質感が異なることに驚きました。質感は、季節や羊の体調でも変わります。羊毛は生きものからさずかる宝物であることを実感しました。（小町谷寿子教授）

短期大学部 生活学科

「瑞穂Promenade」作成中



店舗様にて取材をする学生たち

地域を紹介するパンフレット「瑞穂Promenade」を生活学科2年生11名が作成しています。店舗様のご協力により、取材をさせていただきました。瑞穂区の魅力を多くの方に知ってもらえるようにと、今までに修得した情報活用能力を生かしながら記事を作成しています。11月発行に向けて日程管理の方法も学んでおり、後期は瑞穂区役所の取組について取材する予定です。区役所の協力を得て、公共施設等で配布します。(箕浦恵美子講師)

短期大学部 生活学科

「カセラサラフェスタコンテスト」学生2名が入選



作品制作部門入選 小笠原さくらさん



作品制作部門入選 古橋咲季麗さん

「カセラサラフェスタコンテスト」はファッションを学ぶ学生の物作りへの挑戦や夢を実現するきっかけとなることを目的として、2015年にスタートしたファッションデザインコンテストです。生活学科の1年生は、このコンテストのデザイン画審査に応募して一次審査を通過し、作品制作部門に2作品、デザイン画コンテストに2作品が入選しました。作品制作部門に入選した2名の学生は、3月25日に行われた最終審査会の作品展示と公開審査会でのプレゼンテーションに向けて、自分の作品を着用した写真撮影やプレゼンテーション資料を準備して参加しました。コンテストで入賞は出来ませんでしたが、これまでの学びを生かして完成させた作品を公開審査会で披露した経験は、今後の創作活動に生かされると思います。(小田久美子准教授)

短期大学部 保育学科

東保見こども園 「多文化共生」講演会



外国にルーツを持つ園児の保育について理解を深めました

保育者養成実践講座の授業の一環として、6月24日に外国人が多く居住する豊田市東保見こども園の園長先生、主任の先生にお越しいたごき、多文化共生プログラム「異文化理解・多文化共生の保育を目指して」(特別講演)を行いました。9割以上の園児が外国(ブラジル、ペルー、フィリピン、ベトナム、パキスタン等)にルーツを持つという園で、長年工夫された保育の経験を聞くことができました。(松田ほなみ准教授)

短期大学部 保育学科

尾張旭市役所 「公務員(保育職)の仕事」講演会



園の様子をお話くださる川南保育園下村先生

保育者養成基礎講座の授業の一環として、7月10日に「公務員(保育職)の仕事」と題して、尾張旭市のこども未来課の長瀬係長、森様、尾張旭市立川南保育園下村美穂先生にお越しいたごきしました。公立の就職試験は概ね私立より早く始まります。公立は公務員となるため、公務員についてのお話も詳しく教えていただきました。学生が早期から準備ができるように、1年の前期に講演会を設定しました。(松田ほなみ准教授)

短期大学部 生活学科

主体的学修講座 瑞穂区役所「オレンジリボン」啓発活動



「子ども虐待のない社会の実現」を目指し活動しています

短期大学部ではオレンジリボン運動に取り組んでいます。生活学科では主体的学修講座で瑞穂区役所と連携した啓発活動を5月19日に行いました。まずオレンジリボンをスマホケースなどに着け、周りの人の反応を感じることから始め、当日は瑞穂区役所民生子ども課の方からオレンジリボン運動のお話をお聞きし、瑞穂区役所でオレンジリボンを配布しました。学生はこの活動により、見方や考え方、意識が変わったようでした。(上野真由美講師)

学術情報センター

大学図書館での 「絵本おはなし会」を再開



図書館ラーニングコモンズでのおはなし会

コロナ禍で中止していた大学図書館での「絵本おはなし会」を6月より再開しました。4年ぶりの開催となった6月24日には27名の来場があり、本学での開催を楽しみに待ってくださった方もありました。大学図書館でのおはなし会は学生が会場準備から、来場者の受付、進行まで運営全般を行うことで、学外での共催とは違った学びの場となっており、絵本をととした地域貢献の機会ともなっています。

総合科学研究所

瑞穂区役所「区将来ビジョン」策定のための 学生ミーティングに本学学生が参加



意見をどんどん模造紙に記入する様子



学生たちから将来の瑞穂区へのエール

6月29日に瑞穂区役所にて、区内在住、在学の大学生を対象とした学生ミーティングが開催され、本学の家政学部生活環境学科、短期大学部生活学科からも合計15名の学生が参加しました。瑞穂区では中長期の取り組みを体系化した構想、第二期「区将来ビジョン」(令和6～10年度)の策定を進めており、若い世代の意見を聴く場として学生ミーティングが行われました。区役所より瑞穂区の概要が説明された後、学生たちは「区の特性・魅力」、「子育て」、「防災・安全」等、自分が関心のあるテーマを選び、グループに分かれて意見交換をしました。学生たちは、他大学の学生や、同じ大学でも普段交流のない他学年、他学科の学生とも和気あいあいとした雰囲気の中で活発に意見を出し合い、大変有意義で貴重な経験となったようです。

学生支援センター キャリア支援オフィス

就職活動の「朝活」

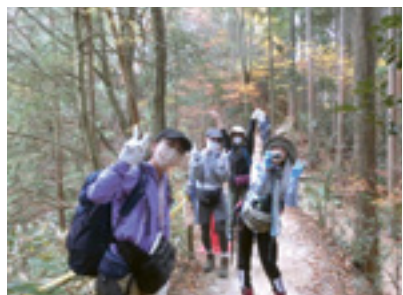


朝活で小論文に取り組む学生
写真右の学生は名古屋市・北名古屋市役所(保育職)に合格

一般企業、自治体ともに採用試験時期が早まる中、少しでも時間を有効に使いたい学生の要望に応え、キャリア支援オフィスではこの春から「朝活」を開始しました。授業開始前の1時間程度を小論文やグループディスカッションに集中することで気持ちよく効果的に学習でき、学部・学科を超えて学ぶ仲間もできることから好評を得ています。これからも学生のため「ちょっとしたサービス」を積み重ねていきます。

サークル活動

ワンダーフォーゲル部の活動紹介



猿投山に登った時の様子

ワンダーフォーゲル部は、登山やキャンプを中心に活動しています。頂上に着いたときに感じる達成感や、綺麗な景色を見て自然と触れ合えることがこのサークルの魅力です。今年は6月に三重県の尾高山、7月に愛知県の鳳来寺山に登りました。仲間と一緒に準備をし、励まし合いながら登り切った時の達成感は最高です。現在、部員が少ない状況なので、登山や自然が好きなメンバーを大募集中です。(ワンダーフォーゲル部副部長 竹内祐月)

学生支援センター 教学支援オフィス

高大一貫連携事業「体験授業」



健康栄養学科西田教授による栄養学の体験授業風景

本学では名古屋女子大学高等学校との高大一貫連携事業として、高校1年生を対象とした大学の施設見学を6月に、高校1・2年生を対象とした体験授業を9月に実施しています。体験授業では各学科の専門的な内容をテーマとした授業を開講しており、高校生は希望する2つの学科の授業を選択して受講します。1・2年生の間に大学の専門的な授業を体験することで、大学、短大への進学意欲の向上や進路選択の参考になっています。

活動紹介

文学部児童教育学科

アメリカ・ユタヴァレー大学学生が
「外国語科教育法」授業に参加

文学部の羽澄直子教授に4年ぶりに再開されたユタヴァレー大学との学生交流について聞きました。

文学部
児童教育学科
羽澄直子 教授

小学校外国語教育関連の授業を担当。子どもたちの文化的背景の多様化に対応できる異文化理解の視点を持つ教員の育成に努めています。



ユタヴァレー大学の学生による大学紹介

文学部児童教育学科と
ユタヴァレー大学
日本語文化研修とのつながり

アメリカのユタ州立ユタヴァレー大学では毎年5月から6月にかけて、同大学日本語プログラム主任の斎藤康子先生の引率で日本語文化研修を実施しています。名古屋で3週間ほどホームステイをしながら日本の文化や歴史を学び、その後広島や京都、東京などを訪れる研修内容です。文学部児童教育学科への訪問は平成29(2017)年から始まり、小学校外国語教育に関わる授業に参加して語学、文化交流を行っています。コロナ禍により研修は3年間で中止されましたが、今年度ようやく再開されました。児童教育学科への訪問は4回目となります。

「外国語科教育法」の
授業での交流

令和5(2023)年度は5月22日の児童教育学専攻3年Aクラス(3・4限目開講)およびBクラス(5・6限目開講)の「外国語科教育法」にて、ユタヴァレー大学の学生17名を迎えました。

両クラスともまずユタヴァレー大学の

学生が日本語でユタ州や大学の紹介をしました。キャンパスの環境や設備、学生生活など、アメリカと日本の大学の違いに本学の学生は強く興味をそられた様子でした。その後Aクラスでは本学の学生が日本文化のワークショップを開き、ユタヴァレーの学生はそれぞれ好きな活動に参加して日本文化を体験しました。

紹介したのは紙ひこうきづくり、絵馬づくり、百人一首の坊主めくり、習字、とんとん相撲で、どれも手軽に楽しめる「日本らしい」遊びで大いに盛り上がりました。

午後のBクラスでは本学の学生が名古屋女子大学の歴史や児童教育学科のカリキュラム、授業、サークル活動などについて英語を交えながら紹介しました。学園創立者越原春子先生の説明の際には学生が自宅から持参した名古屋帯を披露して、注目を集めました。

児童教育学科にとって貴重な
語学・文化交流の場

教育・保育の現場では子どもたちの文化的背景の多様化が進んでおり、これ

からの教員・保育者には異文化理解の視点が不可欠です。児童教育学科では、ユタヴァレー大学の日本語を学ぶ同世代の学生との交流を、異文化理解、言語教育に関わる体験の場となる重要なイベントと位置づけており、今後もこのご縁を大切に続けたいと考えています。



手本を見ながら習字を体験

研究紹介

科学研究費助成事業

「地域を陶冶する『つくる・たべる・おしゃべりする』移動屋台型アートコンテンツ」の目指すもの

文学部の堀祥子准教授に「移動屋台型アートコンテンツ」を活用した研究について聞きました。



文学部
児童教育学科
堀 祥子 准教授

学部は彫刻、修士課程は教育学(美術・工芸)を専攻。博士課程では地域でのフィールドワークとアート活動を展開、社会的コミュニケーションの在り方とアーカイブ方法を研究中。



制作した屋台を目印に人を呼び込み対話を楽しむ実践の準備の様子

「つくる・たべる・おしゃべりする」にまつわるプロローグ

私は、美術大学で彫刻を専門に学びました。彫刻は大きく重い素材を扱うので、一つの作品を完成させるには長時間の作業となり、制作時には他者との協力体制が不可欠です。同じ研究室の先生や仲間たちと一緒に自炊して食事をしながら、芸術のことや制作中の作品の構想のこと、日常的な学生らしいことも交えておしゃべりをし、そこからまた制作に取り組む毎日をキャンパスで過ごしました。

「アート」のプロセスと「陶冶」について

ところで、芸術を表す「アート」の語源であるラテン語の「アルス」には、ものを作り出す手の技という意味合いがあります。私は、人が「もの」をつくる理由に、それを必要とする他者の存在を考えます。なので、芸術について人とおしゃべりすること、手を動かして素材と対話していくことを往還させながら、

頭の中にあるイメージを整理し、目の前に「もの」を出現させていくプロセスを大事にしています。

本研究は、そのプロセスになぞらえ、日々の私たちの暮らしをより良いものにするために、芸術という手段で、人の内側にある願いを「かたち」にして、その可能性を思索する試みです。そして、それを他者のつくる「かたち」と照らし合わせ、共有することで、より良い「もの」や「こと」と進化させることを目指しています。これを本研究では「陶冶」という言葉で定義しています。

「一筋縄ではいかない人生を「アート」で照らす

美大在学中は、土や木や石、鉄など様々な特徴の素材とそれらを取り扱うための専門的な技法に出会いました。そこから学んだことは、「もの」が出来上がるまでには、「一筋縄ではいかない物語、すなわち先人の積み上げてきたプロセスの痕跡がある、ということ」です。人間の日々の営みである「つくる・たべる・おしゃべりする」行為を通して、地域に暮らす

人々の背景にある物語を共有し、寄り添い、「一筋縄ではいかない人生を楽しく豊かにするために、開発したアートコンテンツを移動式の屋台で実践すること」でちよつとした立ち話のきっかけになる仕掛けです。そこから広がる物語を分析した結果は、学会や自主シンポジウムで他領域の研究者と意見交換し、実践での一般市民への成果還元、共同研究者や協力者らと共に取り組んでいます。現在、子どもでも使用できるように改良した新たな屋台の制作準備中です。



コロナ禍は着色した紙粘土で、「たべる」イメージを引き出す工夫をした

就職

学科別進路状況

名古屋女子大学

就職率 **99.6%**

(就職者数÷就職希望者数)

(令和5年5月1日現在)(名)

学科・専攻	進路 決定者	就職		就職者以外		
		希望者	就職者	進学	専門学校 留学	その他
健康 科学部	健康栄養学科	121	122	121	0	0
	看護学科	62	62	62	0	0
	小計	183	184	183	0	0
家政学部	生活環境学科	90	88	87	1	2
文学部	児童教育学科 児童教育学専攻	61	61	61	0	0
	児童教育学科 幼児保育学専攻	123	123	123	0	0
	小計	184	184	184	0	0
合計		367	368	367	1	2

名古屋女子大学短期大学部

就職率 **100%**

(就職者数÷就職希望者数)

(令和5年5月1日現在)(名)

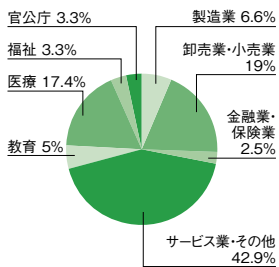
学科・コース	進路 決定者	就職		就職者以外		
		希望者	就職者	進学	専門学校 留学	その他
生活 学科	情報ビジネスコース	31	31	31	0	0
	ファッションデザインコース	5	4	4	1	0
	フードマネジメントコース	10	9	9	0	1
保育 学科	小計	46	44	44	1	1
	第一部	61	59	59	1	1
	第三部	53	53	53	0	0
合計	小計	114	112	112	1	1
	合計	160	156	156	2	2

[名古屋女子大学] 業種別就職状況・主な就職先

学科・専攻別

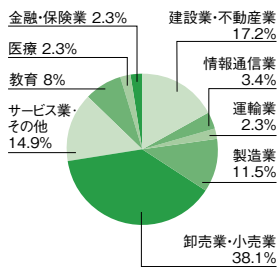
(令和5年3月卒業生実績)

健康栄養学科



【主な就職先】
 ●製造業:カネ美食品/クレフォートグループ/宮古硝子/服部工業
 ●卸売業・小売業:サンドラッグ/たんぽぽ薬局/ユニー/中部薬品/名古屋ヤクルト販売 ●金融業・保険業:飯田信用金庫/明治安田生命保険相互会社 ●サービス業・その他:LEOC/エムサービス/フジ産業/メキユー/メフォス/ロック・フィールド/魚国総本社/日清医療食品/日本ゼネラルフード ●医療:瑞心会渡辺病院関連施設/岐阜県立多治見病院/松任石川中央病院 ●教育:愛知県教育委員会 ●官公庁:金沢市役所/田原市役所/東浦町役場/豊橋市役所 他

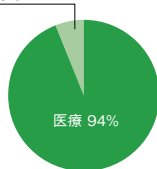
生活環境学科



【主な就職先】
 ●建設業・不動産業:NITTOH/アールプランナー不動産/積水ハウス洞口/三井ホーム/ライフ設計事務所 ●製造業:コメットカウト/トヨタカ産業/服部工業/宮古硝子/空目金屋 ●情報・通信業:NDSソリューション/インフォファーム/シグマトロン ●卸売業・小売業:エディオン/キャン/ジュングループ/高橋物産/たんぽぽ薬局/中部薬品/名古屋青果/日産プリンス名古屋販売/バルグループホールディングス/ロクシタンジャポン ●サービス業・その他:ABC Cooking Studio/ぎふ農業協同組合(JAぎふ)/トヨタレンタリース愛知/ブロンコビリー/マイナビ ●教育:愛知県教育委員会 他

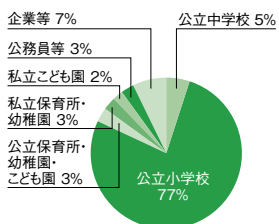
看護学科

官公庁 6%



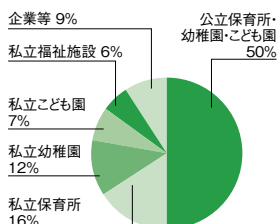
【主な就職先】
 ●医療:日本赤十字社 愛知医療センター名古屋第一病院、第二病院/安城更生病院/一宮西病院/磐田市立総合病院/海南病院/刈谷豊田総合病院/北里大学病院/岐阜大学医学部附属病院/杏林大学医学部附属病院/江南厚生病院/公立陶生病院/国立長寿医療研究センター/市立四日市病院/鈴木病院/総合病院聖隷浜松病院/津島市民病院/大同病院/東京医科歯科大学医学部附属病院/豊川市民病院/名古屋掖済会病院/名古屋市立大学医学部附属東部医療センター/西部医療センター/名古屋市立大学病院/名古屋大学医学部附属病院/日本医科大学付属病院/福井大学医学部附属病院/藤田医科大学大学病院/岡崎医療センター/ばんなね病院/四日市羽津医療センター ●官公庁(保健師):尾張旭市役所/東海市役所/富山市役所/碧南市役所 他

児童教育学科 児童教育学専攻



【主な就職先】
 ●公立中学校:名古屋市/浜松市/横浜市 ●公立小学校:愛知県/名古屋市/岐阜県/三重県/浜松市/川崎市/横浜市 ●私立保育所・幼稚園・こども園 ●官公庁等(行政職):安城市役所/鈴鹿市役所 他

児童教育学科 幼児保育学専攻



【主な就職先】
 ●公立保育所・公立幼稚園:名古屋市/あま市/みよし市/安城市/一宮市/稲沢市/犬山市/岡崎市/尾張旭市/春日井市/蟹江町/北名古屋市/清須市/桑名市/江南市/小牧市/瀬戸市/東海市/東郷町/常滑市/豊田市/豊橋市/西尾市/日進市/東浦町/扶桑町/白川村/瑞穂市/川越町/四日市市/浜松市 ●私立保育所・幼稚園・こども園 他

令和4年度の卒業生は、看護学科第一期生を筆頭に、新型コロナウイルス禍の中で、入念な準備のもと、就職活動に取り組みました。昨年度に引き続き企業はもとより公務員(行政職)の合格者が増加し、就職率は大きく回復しました。

令和4年度 主な資格取得実績

◎…国家資格およびそれに準ずる免許等

名古屋女子大学

資格名	取得者数(名)	資格名	取得者数(名)
◎管理栄養士	100	◎ファイナンシャルプランニング技能士2級	1
◎栄養士	125	◎ファイナンシャルプランニング技能士3級	7
◎看護師	62	◎宅地建物取引士	2
◎保健師	11	食品衛生管理者任用資格	125
◎栄養教諭一種免許状	6	食品衛生監視員任用資格	125
◎高等学校教諭一種免許状(家庭)	7	フードスペシャリスト	38
◎中学校教諭一種免許状(家庭)	7	フードコーディネーター2級	11
◎中学校教諭一種免許状(国語)	30	フードコーディネーター3級	50
◎小学校教諭一種免許状	59	色彩検定2級	19
◎幼稚園教諭一種免許状	150	2級衣料管理士(テキスタイルアドバイザー)	27
◎保育士	125	上級情報処理士	44
◎一級建築士受験資格(実務経験2年要)	4	情報処理士	12
◎二級建築士受験資格	24	日商簿記検定3級	2

名古屋女子大学短期大学部

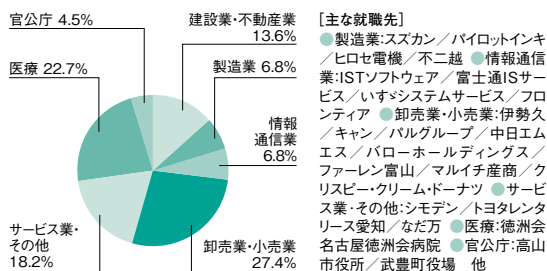
資格名	取得者数(名)	資格名	取得者数(名)
◎保育士	118	プレゼンテーション作成検定1級	36
◎幼稚園教諭二種免許状	118	秘書士	10
◎ITパスポート試験	2	上級ビジネス実務士	5
◎レストランサービス技能士3級	1	ビジネス実務士	1
上級情報処理士	27	秘書技能検定準1級	1
情報処理士	12	秘書技能検定2級	12
情報処理技能検定(表計算)2級以上	33	秘書技能検定3級	42
日本語ワープロ検定2級以上	20	ドレメ式洋裁教員認定	4
医療事務技能審査試験(メディカルクラーク)	4	フォーマルウェアスペシャリスト検定準2級	11
フードコーディネーター3級	11		

[名古屋女子大学短期大学部] 業種別就職状況・主な就職先

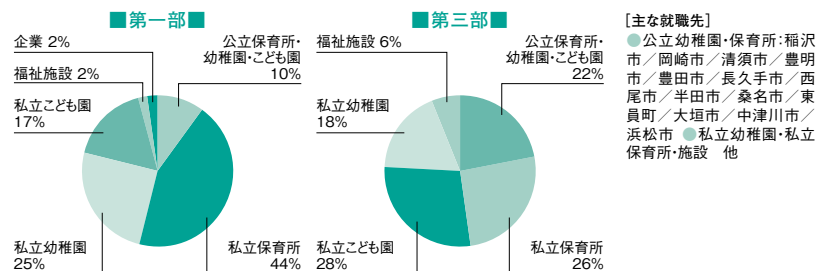
学科別

(令和5年3月卒業生実績)

■ 生活学科 ■



■ 保育学科 ■



令和4年度の就職活動概況

令和4年度卒業生の就職活動は、看護学科第一期生に向け8月末に開催した病院等職種説明会に始まり、10月から12月にかけての業界・職種説明会、3月の個別採用説明会と、半年間の念入りな準備の後に幕を開けました。学生たちは、ますます早期化・短期間化する採用活動の中で真剣に進路を模索しながら大きく成長し、難関といわれる自治体の管理栄養士合格などを含めて、就職活動の結果は、新型コロナウイルス禍以前の水準を取り戻すものとなりました。

また、令和5年度卒業予定者に向けては、業界・職種説明会への自治体(保育士・幼稚園教諭・行政職)の招へいも開始しました。今後も全学部・学科の支援体制の継続・充実を図り、学生たちの将来をより力強く支えていきます。



初開催となった病院等職種説明会

研究助成

令和5年度研究助成採択

研究活動における成果を積極的に社会に還元できるよう、本学では専任教員の教育研究活動の充実発展に取り組んでいます。令和5年度に科学研究費助成事業および学内の教育・基盤研究助成費に採択された研究課題を紹介します。

令和5年度 科学研究費助成事業採択実績

学部	学科	職名	研究代表者	研究課題名	研究種目
健康科学部	健康栄養	教授	片山 直美	初老から高齢者における味覚・嗅覚・咀嚼力と食生活との関連を明らかにするための研究	基盤研究(C)
	健康栄養	講師	近藤 志保	最適化保健指導法のアルゴリズム構築	若手研究
	健康栄養	講師	辻 愛	慢性的心因性ストレスによる卵子の老化に対する栄養学的予防／治療法	若手研究
	健康栄養	講師	山田久美子	子宮内プログラミングによる肥満発症に対する母親の咀嚼運動の効果に関する多角的研究	基盤研究(C)
	看護	教授	中神 克之	卓越した指導を行うICU看護師の指導技能の解明とシナリオ型動画教育教材の開発研究	基盤研究(C)
	看護	教授	新實タ香理	情報プライバシーに配慮した地域医療連携における患者情報の共有のありかた	基盤研究(C)
	看護	教授	渡邊 実香	〇周産期医療・看護学的視点を包括した特別養子縁組養親の親役割獲得支援プログラム開発	基盤研究(C)
	看護	講師	橋本 侑美	NICUを持たない施設看護職に特化した新生児蘇生法学習プログラムの開発	基盤研究(C)
	看護	講師	松田 麗子	日本におけるクリティカルケア看護師のモラルディストレス尺度の開発	基盤研究(C)
医療科学部	看護	助教	野中 光代	重度知的障害者の肥満改善に向けた母親への介入プログラムの効果測定	基盤研究(C)
	理学療法	教授	石田 和人	抑うつに対するリハビリテーションの効果および作用機序の検討	基盤研究(C)
	理学療法	講師	玉 木 徹	糖尿病で生じる神経再生障害に対する性別を加味した効果的な運動療法の開発	若手研究
	理学療法	講師	内藤 紘一	在宅心臓リハビリテーション確立に向けた客観的な身体活動・座位行動の予測モデル構築	基盤研究(C)
	理学療法	講師	内藤 紘一	〇心不全進行予防のためのウェアラブルデバイスを用いた座位時間適正化プログラムの開発	基盤研究(C)
	理学療法	講師	長谷川隆史	脊髄再生医療を念頭に置いた完全脊髄損傷者の装具歩行トレーニングの再考	若手研究
	理学療法	助教	駒形 純也	拡張現実を用いた脳卒中患者の歩行に対する革新的治療プログラムの開発	若手研究
	作業療法	教授	木村 大介	AIによる認知症高齢者のBPSD発現に至る行動パターンの解析に関する研究	挑戦的研究(萌芽)
	作業療法	教授	竹田 徳則	コロナ禍における高齢者の生活機能に着目した認知症予防に向けた縦断研究	基盤研究(B)
	作業療法	教授	藤田 高史	ICT機器を活用した共食による居宅高齢者への包括的フレイル介入の試み	基盤研究(C)
	作業療法	准教授	山鹿 隆義	〇高齢がん患者に対する座位行動減少のための生活機能に着目した身体活動プログラム開発	若手研究
	作業療法	講師	今井あい子	後期高齢者に対する座位行動から低強度活動への置き換えプログラムの作成と効果検証	若手研究
学部	生活環境	教授	渡部 容子	〇子育て教育の地域共同システム横の連携及び縦の一貫性を備えた自治体総合施策の研究	研究活動スタート支援
	生活環境	助教	山田 千聡	明治期「主婦」の翻訳とその変容に関する比較研究	基盤研究(C)
文学部	児童教育	准教授	堀 祥子	地域を陶冶する「つくる・たべる・おしゃべりする」移動屋台型アートコンテンツの開発	基盤研究(C)
	児童教育	准教授	堀 部 要子	特別な教育的ニーズのある児童への支援を促進するリーダーの役割と行動に関する研究	若手研究
	児童教育	講師	門 松 愛	子どもと関わる技術の教授法に関する比較研究:アジア途上国に注目して	若手研究
	児童教育	講師	佐々木基裕	「ニュー・アカデミズム」の学際性に関する知識社会学的研究	若手研究
短期大学部	保育	教授	大嶽さと子	〇コロナ禍における「ママ友」のソーシャルサポートと精神的健康 ―就業形態からの分析―	基盤研究(C)
	保育	教授	鈴木美枝子	東日本大震災の生活環境崩壊による子どもの発達への影響とその支援	基盤研究(C)
	保育	教授	中垣 明美	妊婦運動中の高精度運動量計測を用いた工学的視点と生理学的視点によるリスク評価	基盤研究(C)
	保育	准教授	神崎 奈奈	インフォグラフィックス作成過程の分析と作成支援システムの開発と評価	若手研究(B)

※〇は令和5年度新規採択課題

令和5年度 教育・基盤研究助成費採択実績(新規)

学部	学科	職名	研究代表者	分野	種目	種別	研究課題名
健康科学部	健康栄養	教授	西田 由香	家政	基盤	個人	減塩指導のための食塩の摂取状況とカリウムの摂取タイミングの検討
	看護	准教授	松田 優子	医看	基盤	個人	地域高齢者への多職種協働によるアウトリーチ支援に活かすアセスメントガイドの開発
医療科学部	理学療法	教授	石田 和人	医看	基盤	個人	腸内細菌叢に着目した脳卒中後うつ病の病態解明とリハビリテーションに関する研究
	理学療法	准教授	岡田 誠	医看	基盤	個人	大学生アスリートのスポーツ傷害発生と心理的要因(性格・感情)の検討
	理学療法	講師	加藤 芳司	医看	基盤	個人	労働災害から介護予防までを網羅する動作速度を意識した運動プログラム作成と効果検証
	理学療法	講師	長谷川隆史	医看	基盤	個人	ランニング動作における踵着地からつま先着地へ移行する変曲点の解明
	理学療法	講師	渡邊 潤子	医看	基盤	個人	笑いヨガが医療従事者に及ぼす効果の検証
	理学療法	助教	駒形 純也	医看	奨励	個人	コメディカル専門教育における教育方法論の構築
	理学療法	助手	額原真之介	医看	奨励	個人	深度カメラを用いた3次元のマーカースレス人体骨格推定システムの開発
	作業療法	講師	山下 英美	医看	基盤	個人	リハビリテーション専門職と地域における生活支援の専門職の連携促進に関する研究
	作業療法	助手	長谷川 文	医看	基盤	個人	高齢者の転倒を予防するための新たなプログラム開発に向けて
文学部	児童教育	准教授	吉川 直志	家政	教育	個人	教員養成におけるAIリテラシーと科学的リテラシー両方の教育の必要性
	児童教育	講師	勝田 拓真	人文	基盤	個人	レジリエンスを育む学校経営
短期大学部	生活	准教授	小田久美子	家政	基盤	個人	衣服の循環型システム構築を目指した反毛技術の開発およびユニフォームデザインの検討
	生活	准教授	阪野 朋子	家政	基盤	個人	日本人のビタミンE摂取基準策定に関する基礎的研究
	保育	教授	長谷 範子	人文	基盤	個人	「幼児教育・保育課程」における学習指導要領体制の影響とその背景についての基礎研究
	保育	講師	安藤 恭子	人文	奨励	個人	音楽表現指導におけるモンテッソーリ教具「雑音筒」を用いた試みと教育的効果の検証

※掲載は令和5年度新規採択課題のみ。上記の他、令和4年度からの継続課題5件、科研費差額助成10件に助成。 ※分野欄の「家政」は「家政・自然分野」、「医看」は「医療・看護分野」、「人文」は「人文・社会分野」。種目欄の「基盤」は「基盤研究」、「教育」は「教育に資する研究」、「奨励」は「奨励研究」

令和4年度事業報告

学校法人越原学園の令和4年度における事業の概要は、以下の通りです。

1 事業の概要

令和4年度事業計画に基づいて実施した事業の主な内容

〔法人の部〕

1 管理運営

前年度に引き続き、学園のガバナンス機能の強化を目的として、理事会決定事項を執行機関である法人本部を中心に、設置する各学校において業務改革改善を推進するとともに、監事の業務監査等により、事務処理の適正化に努めました。また、事務組織機構の改革改善の推進、IR機能の強化などを通じ、学園の基盤強化に取り組みました。

2 広報

大学短大では、国家試験採用試験合格実績にスポットを当てた高校広報を実施することで、接触者のイベント参加率・出願率及び出願合格者の入学率向上に努めるとともに、初年次教育との連続性を意識した入学前教育の充実を図りました。また、付属幼稚園では、広報媒体の強化、預かり保育・プレスクール・課外授業の充実と広報に取り組みました。

3 施設設備

大学短大では、学生の安全安心に資する施設設備の維持・拡充、学内サーバの更新、令和5年度の改組等に伴う改修工事、教育研究等の機器・備品に係る棚卸し・管理システムの整備等を行いました。

4 収益事業

太陽光発電、不動産賃貸を主たる事業として、太陽光発電設備の追加設置、賃貸用建物の建設を行いました。

〔大学・短大の部〕

1 教育研究体制の改革推進

教育特色化推進計画の継続実施・公費の適正使用の厳格化推進、自己点検・自己評価の検討見直し、教員評価の継続実施、教育・基礎研究助成を活用した研究活動推進に取り組みました。

令和5年度から、家政学部生活環境学科、健康科学部看護学科の入学定員を、それぞれ80人から120人に変更するとともに、文学部児童教育学科の専攻区分（児童教育学専攻、幼児保育学専攻）を廃止し、入学定員を200人から120人に変更することとし、学生定員変更に係る学則変更を文部科学省に届け出しました。

2 学生支援体制の改革推進

キャリア支援体制の強化・充実、インターンシップ、社会体験活動の支援体制の強化・促進、初年次教育の推進充実・学生サポーター体制の強化・促進、自己点検・自己評価委員会シラバス検討作業部会によるシラバス記載内容の見直しと点検・充実、高等教育の修学支援新制度における支援体制の強化・促進、校地内完全無煙禁煙の継続推進、学生寮寮生の生活支援、大学、大学院および短期大学の教育課程の体系化とナンバリング等の検証・見直し、カリキュラムマップ運用の検証とカリキュラムツリーの検証・見直し、教育の質保証の推進・学修成果の可視化ルーブリック評価の検証、学生の学修成果の把握のための学修到達度・学修行動等の調査継続・分析の推進、学生ポートフォリオの全学的導入状況の検証、CAP制の実質化、授業連携図書館利用指導の実施と図書館学習支援の充実、ICT教育の推進と学習支援環境の充実、入学予定学生向け図書館開放と入学前学習の支援、学科・図書館連携読書推進活動の継続実施、学科・図書館連携による語学支援アクティブラーニング学習支援、他大学、地域連携による学生の主体的活動推進、学生のボランティア活動への参加促進支援、LMSシステムによるe-ポートフォリオ

の実施に取り組みしました。

3 自己点検・自己評価

大学では、日本高等教育評価機構による第三者評価（大学機関別認証評価）を受審し、同機構が定める評価基準に「適合」として認定されました。

短大では、令和5年度の受審に向けて、大学・短期大学基準協会が定める短期大学評価基準（令和2年6月改定）に基づき、自己点検・評価報告書の作成を進めるとともに、①前回認証評価（平成28年度）の改善事項、令和元年度自己点検・評価での改善計画に対する改善状況、②3つのポリシーの達成状況に関する自己点検・評価を報告書にまとめました。

4 FDS活動の推進

FDとして、学生による授業評価の結果に基づき、各種の授業改善活動を実施し、評価が低い授業担当者の授業改善に、継続的に取り組みました。また、学科毎に授業改善、教育課程や教育内容の検討を行い、教育の質保証につなげました。

SDとして、職員と教員による「教職協働」研修として、「教学IR／内部質保証」をテーマにGPS－Academicの受検データを用いたケーススタディを行いました。また、ICT全般の知識・技能の習得を目的にICT講習会（年間4回）、及び新任教職員のITリテラシー教育、初任者向け基礎講習会を実施しました。

5 社会貢献の推進

名古屋市瑞穂生涯学習センターとの共催で、「幼児期から学童期の食事と健康の関係について」をテーマに、健康科学部教員による講演を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインカレッジは前年に引き続き学外向けの講座を中止し、在学生の資格取得を目的とした講座に絞って開講しました。

学生が主体的に取り込む地域連携活動として、瑞穂図書館での「おはなし会」を9回開催し、絵本読み聞かせを通じた社会貢献の場を創出しました。

6 情報公開

学園ホームページに、令和4年度の研究活動等の状況、教員養成課程の状況および財務状況に係る情報を公開しました。

〔幼稚園の部〕

教育・保育内容の充実及び質の維持・向上、保育環境の整備・充実、大学との教育・研究連携の充実、家庭及び地域との連携に取り組みました。

2 財務の概要

教育活動収入は、学生生徒等納付金、手数料、経常費等補助金などの経常的な教育活動に係る収入で、予算に対し1千9百万円増の4億1千5百万円となりました。主な増加科目内訳は、経常費等補助金および雑収入です。

教育活動支出は、教職員の人件費、教育研究活動及び法人の運営に必要な諸経費で、45億8千7百万円となり、当年度の教育活動収支差額は、予算に対し8千3百万円増のマイナス5億7千3百万円となりました。

なお、受取利息・配当金などを加えた教育活動外収支差額は3千6百万円となり、当年度の経常収支差額は、予算に対し4千3百万円減のマイナス5億3千7百万円となりました。

また、中学・高校第一体育館の解体等で資産処分差額1億8百万円を計上したこともあり、当年度収支差額は6億1千7百万円のマイナスとなりました。以上より、翌年度繰越収支差額は6億5千2百万円、翌年度繰越支払資金は30億7千万円となりました。

詳細は、学園ホームページ「事業報告・財務状況」ページ
<https://www.koshitaranogyo-a-w.ac.jp/about/report.php>
 の「事業報告書（令和4年度）」をご覧ください。

名古屋女子大学高等学校

コロナ禍を乗り越えた 学園生活



越原研修—春子先生の生家訪問

令和5年3月1日、卒業生183名は様々な思い出を胸に笑顔で巣立ち、続く4月6日には259名の新入生を迎え、新年度が始まりました。社会的に深刻な影響を与えた新型コロナウイルスも5月8日以降は5類感染症に移行し、学園生活はようやく平生を取り戻しつつあります。3年間の中止を余儀なくされていた新入生越原研修も、日帰りではありましたが、二組に分かれて4月18日と20日に実施されました。続けて5月2日には球技大会が、6月15日には体育祭が開催され、特に815名の来場者をお迎えした体育祭は大盛況となりました。一方部活動も、新体操部の県大会団体44連勝を始め、陸上、テニス、ハンドボール、バスケットボール、バレーボールの各部が県大会出場を決めるという活躍ぶりでした。7月28日に1学期の終業式を迎えましたが、休む間もなく、7月31日からは夏期講習が、8月7日からは二泊三日で学習合宿が実施され、生徒たちは猛暑の中、勉学にも大いに励んでいました。

名古屋女子大学中学校

中高一貫生の 充実した学校生活



体育祭 応援合戦

令和5年3月1日、一貫課程高等部Ⅷ期生31名は、6年間学び慣れ親しんだこの学舎を巣立ちました。また、中等部3年生115名は3月20日に修了式及び立志式を終え、新たな決意を胸に秘め高等部に進級しました。そしてその後を引き継ぐ新入生104名が4月6日に入學し、令和5年度の新学期が始まりました。新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、全ての学校行事をコロナ禍前の制限のない状態で実施することになりました。4月から学年別保護者会が順次行われ、5月には、球技大会、越原研修、1学期中間試験が実施されました。6月には日本ガイシホールでの体育祭がありました。保護者の参観も解禁となり、800名を超える多くの保護者が参観され、学校、生徒、保護者との一体感を強く感じる素晴らしい体育祭となりました。6月末からの期末試験が終わり7月28日には終業式を迎え、そして5日間の夏期講習、2泊3日の学習合宿と充実した夏休みを過ごしました。

名古屋女子大学付属幼稚園

夏の夜の楽しい思い出 —夕涼み会



どんなかき氷ができるかな



親子で一緒に釣り竿作り

今年の夕涼み会のテーマは「カラフル祭りだ！ハッピースマイルで夏の思い出を作ろう」として実施しました。5歳児は、自分たちのイベントブースに「宇宙探検」という部屋を作りあげ、部屋に入るための宇宙服や彗星織姫の服も準備し、楽しい造形表現が詰まったブースを作り上げました。子ども達は、ストーリーも皆で考え、自らその世界に入って楽しんでいました。縁日オリエンティングの中の「かき氷屋さん」は、子ども達が自ら作った梅シロップをかけて、格別のかき氷を提供しました。親子で話も弾み、和やかな交流の場になったように思われます。幼稚園ホールの木工コーナーでは、大学のお姉さんに補助していただきながら、ヒノキの魚を釣り上げる釣り竿作りを楽しみました。クリックドリルでの穴あけやのこぎりを使った場面では、自らの経験から自信をもつて取り組むことができ、その姿に保護者も子ども達の姿を頼もしく感じた様子でした。第2部は、教員の和太鼓でスタートしました。お腹に響く力強い太鼓の音に耳を傾けながら、楽しい親子ダンスや盆踊りを楽しめました。夕涼み会は、子どもだけでなく、皆の笑顔が輝いた夏の夕方の一コマとなりました。

学園の回想

Remember the history of Nagoya Women's UNIVERSITY

「生徒とともに学ぶ喜び」 「親切」の深い意味



三重県立久居農林高校「一志地区親子料理教室」



全国菓子大博覧会「久居農林高校 工芸菓子展示」

私は現在、2つの県立高校で非常勤講師をしています。1980年（昭和55年）3月に名古屋女子大学家政学部家政学科食物学専攻を卒業し、2年間の非常勤講師を経て、41年間家庭科教諭の道を歩んできました。1982年4月三重県教職員に新規採用され、長島高校へ着任し、生徒指導の基本とその重要性を学びました。

相可高校には16年間勤務しました。生徒とともに学ぶ、それはとても尊い時間でした。自分の人生に幾つかの宝物を得ることもできました。私は「栄養」「食品」「集団調理」など専門科目を中心に教えました。これは食物調理科調理師コース「調理師資格」取得の必修科目です。名古屋女子大学で取得した「栄養士」の資格の重みと可能性を感じながら、昔学んだ専門書のページをめくりました。

食物調理科4期生に「管理栄養士」を目指す優秀な生徒の入学を契機に「管理栄養士」への志を抱くようになりました。さらに専門科目について自信と確信をもつて授業内容を指導したいという思いから、受験を決意しました。合格を機に「栄養士会」会員となり、研

第37回

修する機会も得ることができました。

相可高校へ赴任した夏は食物調理科発足を次年度に控え、県内フレックスホテルにて研修の毎日でした。生徒のインターンシップ実習に先だつての研修はこれから指導していく私にとつて有難いと思いました。和食と洋食の授業では専門調理師の資格を持った先生とTT（ティームティーチング）で入る機会を得て、生徒とともに専門的技術を学ぶこともできました。さらに食物調理科食文化コースの生徒への「製菓衛生師」資格取得と指導に向けて、県内の専門学校との協力のもと「通信制」を取り入れる検討を重ねながら2年間教職員同士の研修も終え「製菓衛生師」を受験、資格を取得しました。

久居農林高校には退職後再任用を含めて14年間。「調理」「栄養」「食品」「食品衛生」など専門教科の授業を持ち、「津ぶつこ」という津市と地域との「交流授業」や伊勢で行われた「全国菓子大博覧会」に参加し、和菓子職人の方との協力のもと生徒たちと奮闘し、何とか展示に漕ぎつけることができました。大学時代、優秀とは言えない私でしたが教員となり幾つかの挑戦に臨み、

学びの大切さを再確認してきました。「特殊栄養学」では青木先生、「微生物学実験」では藤井先生・山根先生、小野先生の「調理学」、何れも家庭科教員としての道標としてきました。特に「ワトリの解体」実習は「しめて血抜き」から始まる、良い意味でセンサーシナルで専門的技術を目の当たりにした瞬間でした。セピア色になった「日本料理」「西洋料理」「中華料理」の実習ノートですが内容は今も輝いています。



宮原伸代 さん
(春光会三重県支部長)

家政13回（昭和55年3月卒）
家政学科食物学専攻

古文書・古書への招待

vol.42

短期大学部 教授 遠山佳治



名古屋衛生博覧会絵葉書「正門」

今回紹介する資料は、大正15（1926）年10月1日から31日まで、名古屋市中区南鍛冶屋町の市立第一高等女学校跡を主会場として開催された名古屋衛生博覧会の絵葉書です。衛生展覧会・博覧会とは、明治から昭和初期にかけて各地で開催された衛生思想の展示です。身体展示等で医学界や赤十字社も関わった反面、性や出産のテーマでは物見の要素もありました。大正5年のコレラ流行を機に、さらに関心が高まり、大正8年に京都で全国衛生博覧会が開催され、名古屋に繋がっていきます。柴田善三郎愛知県知事を総裁、田阪千助名古屋市長を会長として組織された名古屋市総連連合衛生会によって催されました。18の部門（婦人育児、学校、体育、飲食、治療看護など）で展示出品数は9千点余に及びました。飲食部門ではビタミン解説、牛乳の衛生的注意など、疾病予防部門ではコレラ患者模型、赤痢ワクチンなどの他に、特別にトラホーム、結核、らい病（ハンセン病）、口腔衛生のコーナーが設置されました。また、結核予防室・相談所、花柳病予防室などの相談・検査室も設けられていました。なお、余興として、市内五連妓組合が名古屋踊りを披露しました。期間中約60万人が訪れ、人々の衛生や伝染病に関する理解が広まっていきました。この絵葉書は、越原記念館企画展「故きを温ね『食と健康』を科学する」で展示しています。

EVENT INFORMATION

越原記念館 企画展

故きを温ね「食と健康」を科学する

令和5年9月20日（水）～令和6年2月15日（木） 越原記念館 第3展覧室

本学は健康科学部と医療科学部を併設し、人生100年時代を生きる「食と健康」の学びをさらに深く進めています。この企画展では、本学における医療・看護、口腔機能、栄養・調理、リハビリテーション・健康増進などの分野から、課題を解決するために探求し検証する姿、科学する学びの一端を紹介いたします。歴史を紐解くと、今を遡ること三百余年、正徳3年（1713）に、貝原益軒は今日の予防医療や看護に通じる『養生訓』を著し、健康な身体と精神の調和をいかに図るか、また病と食材・食べ合わせをはじめ食養生の実践など生活規範を説いています。学園所蔵の『養生訓』『病家須知』をはじめ江戸・明治・大正・昭和の資料から、今の時代に求められる先人たちの食や健康にかかわる知恵やこころについて理解を深めていただければ幸いです。

越原記念館（名古屋女子大学内） 開館時間／10:00～17:00 休館日／土・日・祝日・学園休業日



企画展ポスター

越原記念館 関連行事

参加無料

越原記念館ギャラリートーク

令和5年10月7日（土）13:30～14:30 先着20人

集合時間／13:20（予約不要・参加無料） 集合場所／越原記念館1階ロビー

今回「企画展」では『養生訓』をはじめ「食と健康」に関する資料の見どころを、「写真展」では昭和10年頃の山崎川周辺の二つの池の記録、「常設展」では江戸時代から越原家に伝わる機械織機で織りの実演など資料解説とともに、記念館の魅力をたっぷりご案内します。 ※当日の本講座の実施有無につきましては、当館HP・代表電話等でご確認ください。

卒業式のご案内

〔大学院・大学・短大合同〕令和5年度卒業式

令和6年3月18日（月）10:00～11:00

会場 名古屋女子大学中学校・高等学校 体育館
名古屋市中瑞穂区萩山町1-54-1
地下鉄桜通線「瑞穂区役所」下車（徒歩15分）

※開催場所・方法は変更される場合があります。
最新の情報は本学HPでご確認ください。

BOOK INTRODUCTION

本学教員の著書の案内

子どもの健康と安全
（改訂第2版）

山田裕子准教授 分担執筆



「子どもの健康と安全」は保育士養成の教科書として、子どもたちが健康に育ち育てられるよう看護師・保健師らにより執筆されました。予防接種を始め最新の情報を盛り込んでいます。（中山書店）

心理療法家になる
—内界の旅への実践ガイド—

ルイス・コプリノ 著 山田勝講師 監訳



米国の心理療法家であるコプリノが、心理療法の実施においては、技術だけでなく、心理療法家自身を知ることが重要と説いています。読みやすい翻訳を心掛けました。（誠信書房）

いちばんはじまりの本

—赤ちゃんをむかえる前から読む発達レシピ—

嶋杉子助教 分担執筆



“子どもがまんなかの子育て”本。胎児期から学童期までのよくある相談の具体的なとなえ方や、考え方のヒントを、わかりやすい見開きのQ&A方式で紹介しています。（クリエイツかもがわ）